

マテリアリティについて

マテリアリティ・マップ作成への取り組み準備

「曙の理念」は、事業運営や環境保全、社会貢献なども含む、akebonoのあらゆる企業活動での企業の社会的責任(CSR)を実現するakebonoグループのビジョンとして、人だけでなく、草木を含めた地球上すべてのいのちひとつひとつを守り、育み続けて行くために、健全な経営のもとで利益を創出していくことを定めています。この「曙の理念」をakebonoグループのCSR活動指針として捉え、コーポレートブランド経営を通じて「曙の理念」を守り高めていくことで、akebonoグループはさらなる企業価値の向上をめざしています。

「曙の理念」では、「曙の理念」の価値観を共有するステークホルダーを、お客様、株主様、お取引先様、地域社会と地球環境、私達ひとりひとり(社員)と定め、そのステークホルダーに対して、どのようなアプローチが必要なのかを明確に位置付けするため、akebonoはマテリアリティ・マップ作成に向けて準備を開始しました。

GRIの「Sustainability Reporting Guideline Version 3.0」で、「報告書中の情報は、組織の重要な経済的、環境的および社会的影響を反映するテーマおよび指標あるいは、ステークホルダーの評価および意思決定に実質的な影響を及ぼすであろうテーマおよび指標を網羅すべきである」と述べられており、akebonoのマテリアリティ・マップについても、この観点で作成していく予定です。今回は準備段階として、akebono社内で検討が進んでいるリスク管理の取り組みのうち「全社重点リスク評価マップ」に基づき、akebonoが今、ステークホルダー

「曙の理念」の価値観を共有するステークホルダー



に対してどのような影響を与えるのかを項目ごとに洗い出し、マテリアリティ・マップ上に整理しました。

グローバル化が急速に進展し、市場が大きく変化する中で、社会・環境などの前提条件の変化にも対応が可能となるように検討を重ね、今年度1年間をかけて、マテリアリティ・マップとして、よりakebonoのCSR活動の真情に即したものとなるよう作成していきます。

2008年全社重点リスク評価マップをベースとしたマテリアリティ・マップ準備版

大 ↑ akebonoグループへの影響度 ↓ 小	<ul style="list-style-type: none"> ● 敵対的買収の実行 ● 資産管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然災害(地震・台風)のリスク発生への対応 ● 新型インフルエンザなどの発生への対応 ● 従業員の安全確保と防災訓練 ● 情報漏洩防止等、統制の行き届いた情報管理徹底 ● 海外ローカルを尊重したビジネスモデルの構築 ● カントリーリスクに対する管理体制の構築 ● コンプライアンスの遵守(教育・啓発活動) ● 調達先との良好な関係構築(GQCDDM*) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車産業の市場変化(低燃費化・軽量化)に対応可能な経営体質および組織 ● 専門技術を持った人材の養成 ● 経営マネジメント能力のある人材の養成 ● ダイバーシティ、ワークライフバランスの推進 ● 高齢化に対する技術の伝承 ● プレーキの安全安心を支える品質保証の構築(TS, ISO9001-2000, PDCAの組織への定着) ● 新製品・新技術への経営資源の投入
	<ul style="list-style-type: none"> ● 金利変動リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資金の流動性の確保と信用力の維持 ● 資金調達コスト低減をめざした公正な情報開示 ● 為替変動リスク ● 知的財産の保護 ● 労使協調による円滑な企業運営 	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂の削減(2010年度 7%削減(1990年度比)) ● VOCの削減 ● 環境に配慮した製品の開発(電動ブレーキ、新幹線、風力発電用ブレーキ) ● アスベスト製品に対する健康被害への対応
小	← ステークホルダーにとっての影響度 →		

*GQCDDM: グローバル・クオリティ・コスト・トータル・リードタイム・デベロップメント・マネジメント